

## 日本語の学習者における依頼表現のストラテジー

シェミ・ハリアンティ・ジャヤンティ

20130830053

### 要旨

本研究にて依頼表現のストラテジーを分析する。本研究の目的は学習者がお願いする時にどのようなストラテジー型とストラテジーの選ぶ理由を使うかということである。本研究では Blum-Kulka の CCSARP というプロジェクトが先行研究の参考になる。研究方法はアンケート収集とインタビューから *descriptive* 分析をする。本研究では DCT (*Discourse Completion Test*) というアンケートを使う。本研究は 2016・2017 年のジョグジャカルタムハツマディヤ大学の日本語教育学科の 4 年生、合計 30 名の学習者にアンケートを行い、学習者のストラテジー型を CCSARP でカテゴリーに割ける。分析の結果は回答 240 から見つけた依頼表現に 79,16% の *conventionally indirect* という直接ではないストラテジーを使い、17,91% に *impositives* という <sup>ちよくせつてき</sup>直接的なストラテジーを使い、2,91% に *hints* というヒントのストラテジーを使う。解答者の見つけた依頼表現から、聞き手が丁寧のために直接ではないストラテジーを使いという理由が考えられる。

キーワード：依頼、表現、ストラテジー、DCT、CCSARP

## 1. 序論

本研究にて依頼表現のストラテジーを分析する。本研究の目的は学習者がお願いする時にどのようなストラテジー型とストラテジーの選ぶ理由を使うかということである。話し手は聞き手に面倒したい時と聞き手に頼みたいとき、命令の表現より、依頼表現を使う。このことは丁寧であるためであり、そのことも毎日、普通に見つける表現だと思われる。本研究は、依頼表現への興味から、依頼表現について分析したいと思う。

本研究では2016・2017年のジョグジャカルタムハツマディヤ大学の日本語教育学科の4年生において分析する。学習者は依頼表現を使う時にどのようなストラテジー型を使うかを分析し、学習者はお願いする時にどのような丁寧な依頼表現を使うのかを分析したい。本研究の目的は学習者がお願いする時にどのようなストラテジー型と敬語を使うかを探る。本研究では Blum-Kulka の CCSARP というプロジェクトが先行研究の参考になる。

## 2. 本論

本研究の研究方法はアンケート収集から *descriptive* 分析をする。本研究では DCT (*Discourse Completion Test*) というアンケートを使う。学習者にアンケートを行い、学習者のストラテジー型を Blum-Kulka の CCSARP というプロジェクトでカテゴリーに割ける。これによると、最も使うストラテジーは *conventionally indirect* という間接的なストラテジーを使うことが分かる。つまり、学習者はサンプルとして相手の話に依頼表現でお願いする時に

*conventionally indirect* のストラテジーを使う学習者が多いのである。近い相手に話せば学習者は普通の言葉と丁寧「です、ます」の言葉を使い、近くない相手に丁寧な言葉「です、ます」と尊敬語を使う。

#### A. データおよび研究の方法

本研究では DCT (*Discourse Completion Test*) というアンケートを使う。DCT のアンケートの内容は決められた場面があり、学習者は解答者としてそのような場面にあえばどのような表現を使うのかを調べる。その後、*Deskriptive* でデータの結果を深く分析する。データの収集は Blum-Kulka の CCSARP で三つのストラテジーと九つのストラテジー型でデータをカテゴリーする。カテゴリーは次の表 1 に示す。

表.1

<small>こうさつ</small> 考察されるストラテジー	CCSARP のストラテジー型
<i>Impositive</i> (A のストラテジー)	1. <i>Mood derivable</i> 2. <i>Performatives</i> 3. <i>Hedged performatives</i> 4. <i>Obligation statements</i> 5. <i>Want statements</i>
<i>Conventionally Indirect</i> (B のストラテジー)	6. <i>Suggestory formulae</i> 7. <i>Query preparatory</i>
<i>Hints</i> (C のストラテジー)	8. <i>Strong hints</i> 9. <i>Mild hints</i>

B. 分析の結果と；考察。表.2

場面	相手	馴染み <small>なじみ</small>	ストラテジー		割合 <small>わりあい</small>	
1	同級生	近い	A	MD	2名	23,33%
				P	4名	
				HP	1名	
			B	QP	23名	<b>76,66%</b>
2	同級生	近くない	A	P	1名	13,33%
				WS	2名	
				HP	1名	
			B	QP	26名	<b>86,66%</b>
3	先輩	近い	A	P	3名	20%
				HP	2名	
				WS	1名	
			B	QP	22名	<b>73,33%</b>
			C	MH	2名	6.67%
4	先輩	近くない	A	HP	4名	13,33%
			B	QP	23名	<b>76.66%</b>
			C	MH	3名	10%
5	後輩	近い	A	MD	1名	26,66%
				P	7名	
			B	QP	21名	<b>70%</b>
			C	SH	1名	3.3%
6	後輩	近くない	A	P	3名	16,66%
				MD	1名	
				WS	1名	
			B	QP	24名	<b>80%</b>
			C	SH	1名	3.3%
7	先生	近い	A	HP	2名	20%
				WS	2名	
			B	QP	26名	<b>86.67%</b>
8	先生	近くない	A	P	1名	13,33%
				HP	3名	
				WS	1名	
			B	QP	25名	<b>83.33%</b>

このデータによると最も使うストラテジーはBのストラテジーである。Bのストラテジーは *conventionally indirect* というストラテジーである。それは直接ではないストラテジーであり、多くの解答者は聞き手に物を借りる前、確認する。「～てもいいですか」という表現をよく使う。これは近くない聞き手に使うことは理解できるが、近い聞き手にどうして直接ではない表現を使うのか。それはインタビューによると解答者は聞き手に丁寧であるために使うと言う。そのようなストラテジーは Yule (1996:61)によると、*negative politeness* という丁寧なストラテジーである。*negative politeness* は他の人に丁寧な表現を使うために見られる。アンケートにおいても、この理由は多くの解答者が言っていた。分析の結果は、回答 240 から見つけた依頼表現は 79,16%が *conventionally indirect* という間接的なストラテジーを使い、17,91%が *impositives* という直接的なストラテジーを使い、2,91%が *hints* というヒントのストラテジーを使う。解答者は丁寧と見られる *negative politeness* というコンセプトを使う。

### 3. 結び

本研究は2016・2017年のジョグジャカルタムハマデア大学の日本語教育学科の4年生、合計30名の学習者にアンケートを行い、学習者のストラテジー型を Blum-Kulka の CCSARP というプロジェクトでカテゴリーに割けた。分析の結果は回答240から見つけた依頼表現は、79,16%が *conventionally indirect* という直接ではないストラテジーを使い、17,91%が *impositives* という直接的なストラテジーを使い、2,91%が *hints* というヒントのスト

ラテジーを使っていた。これは解答者の見つけた依頼表現から、聞き手が丁寧な人に見られるためという理由である。そして、それは行為において *negative politeness* というコンセプトが使われていた。

今後、他の研究者は本研究の研究を続けたい時、色々な場面で本研究を続けることが出来る。同じ研究で *roleplay* の研究のインストルメントを使うことも出来る。謝り表現を同じストラテジーで研究することが可能である。

#### 4. 参考文献

- Chaer, Abdul. 2012. *Linguistik Umum*, Jakarta, Penerbit Rineka Cipta.
- Dahidi, Ahmad dan Sudjianto. 2004. *Pengantar Linguistik Bahasa Jepang*, Jakarta. Oriental.
- Blum Kulka, Shosana House dan Gabriel Kasper. 1989. *Investigating crosscultural pragmatics: An introductory overview. Cross-cultural pragmatics: Requests and apologies*, Norwood. NJ: Ablex Publishing.
- Lubis, Prof. A. Hamid Hasan. 1993. *Analisis Wacana Pragmatik*, Bandung. Penerbit Angkasa.
- Nadar, F.X. 2009. *Pragmatik dan Penelitian Pragmatik*, Yogyakarta. Graha Ilmu
- Misnora. 2013. *Analisis Makna dan Penggunaan Irai Hyougen dalam Bahasa Jepang*, Riau. Repositori Universitas Riau.
- Mizutani, Osamu dan Nobuko Mizutani. 1987. *How To Be Polite In Japanese*, Tokyo, The Japan Times, LTD.
- Rosiah, Rosi. 2013. *TRANSFER PRAGMATIK DALAM RESPON TERHADAP UNGKAPAN PUJIAN PEMBELAJAR BAHASA JEPANG*. Universitas Pendidikan Indonesia : tidak diterbitkan.
- Susanti, Rita. 2008. Mei. *Tindak Tutur Memohon dalam Bahasa Jepang (Irai) Analisis Skenario Drama Televisi Jepang Love Story Karya Eriko Kitagawa*. *Jurnal Lingua Cultura*, 76-77.
- Sutedi, Dedi. 2008. *Dasar-Dasar Linguistik Bahasa Jepang*, Bandung: Humaniora.
- Sutedi, Dedi. 2011. *Penelitian Pendidikan Bahasa Jepang : Panduan bagi Guru dan Calon Guru dalam Meneliti Bahasa Jepang dan Pengajarannya*, Bandung : Humaniora.
- Yule, George. 1996. *Pragmatics*, Oxford, Oxford University Press.
- 岡崎志津子：ロールプレイで学ぶ会話（2）こんなとき何と言いますか。  
株式会社凡人社、1988年
- 小川芳男：日本語教育辞典。大修館書店、1995年
- 嶋田 和子：ロールプレイ玉手箱。ひつじ書房、2010年
- 星野 恵子：日本語集中トレーニング。アルク、2011年